

第10期 第4回 練馬区循環型社会推進会議（発言要旨）

日時、場所	令和2年9月7日（月） 9時30分～11時30分 練馬区役所本庁舎5階 庁議室
出席者	出席委員名 13名 庄司会長、森副会長、佐藤委員、鈴木(収)委員、松浦委員、森委員、横谷委員、高橋委員、鈴木(政)委員、高内委員、武田委員、市川委員、五十嵐委員 事務局 6名 環境部長、環境課長、清掃リサイクル課長、みどり推進課長、練馬清掃事務所長、石神井清掃事務所長

【次第】

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 令和元年度練馬区資源・ごみ排出実態調査報告について
- 5 その他
- 6 閉会

議 事 内 容

○会長

おはようございます。それでは、第4回の資源循環型推進会議を開催いたします。

コロナウイルスの感染拡大ということもありまして、マイクについては、その都度消毒をするということで、発言する際には、手を挙げていただければ係の方がそちらにマイクを持って行くという、そういう運びになっています。ご協力をお願いいたします。

それでは、会議に入ります。まず、今日の出席状況を事務局からお願いいたします。

○事務局

それでは、事務局から委員の出席状況を報告いたします。

ただいまの出席委員数は、12名となっております。当会議の定足数は8名ですので、本日の会議は成立いたします。

次に、机前にお配りしております委員名簿、事務局名簿をご覧くださいませでしょうか。

会議に先立ちまして、4月1日付で異動してまいりました事務局の異動者より一言ご挨拶をお願いいたします。

(事務局の紹介および挨拶)

○会長

よろしくをお願いいたします。

それでは、次にまいります。前回の第3回会議の発言要旨について、修正の申出がありました。修正したものは、郵送をもって皆様に承認をいただきましたので、ご承知されているかと思えます。なお、発言要旨は、ホームページに掲載してございます。

では、議題に入ります。

最初に、議題1、令和元年度練馬区資源・ごみ排出実態位調査結果についてです。事務局からお願いいたします。

○事務局

それでは、令和元年度資源・ごみ排出実態調査についてご報告いたします。

概要版に基づいて説明させていただきます。

練馬区では、毎年9月に家庭から出されるごみ、資源について、どのようなものが含まれているか、調査を行い、結果を公表しております。調査は、可燃ごみ、不燃ごみ、容器包装プラスチックの3種類について行いました。まず、可燃ごみですけれども、82.3%が正しく分別されておりました。参考までに、昨年度は79%という割合でした。正しく出されていないもの17.7%のうち、資源化可能物、いわゆる資源にできるものが17.3%含まれていました。その中で一番多いものが紙類で、12.5%という割合です。続きまして、不燃ごみですが、77.2%が正しく分別をされておりました。昨年度は、71.7%でした。正しく出されていないもの22.8%のうち、資源化可能物が14.2%含まれておまして、その中で一番多いものがびん・缶類で10.9%でした。続きまして、容器包装プラスチックです。78%が正しく分別されておりました。昨年度は75.8%でした。正しく出されていないもの22%のうち、一番多いものが製品プラスチックで、5.7%含まれておりました。昨年度の8.1%から改善されています。

可燃ごみ、不燃ごみ、容器包装プラスチックとも、正しく分別されている割合は増えています。令和元年度の資源ごみ排出状況は以上のとおりです。

続きまして、次のページをご覧ください。左ページに正しく分別できていない例を写真で具体的に載せております。右ページに正しい分別の仕方や、集積所などに出すときの注意事項を説明しております。4ページをご覧ください。昨今、社会問題となっておりますプラスチックごみの正しい出し方です。使い方を見直して減量をしましょうといったような内容です。

下の段がフードロスについての説明です。説明は以上です。よろしくお願ひいたします。

○会長

事務局から説明がありました。お気づきの点、感想、あるいは質問等ありましたらどうぞ。

分別されていない割合について、パーセントが出ていますけれども、ごみの量というのは、全部重量で捉えます。これが問題なのでして、ごみ量の多少は重量だけでなく容量（かさ）でも捉えないとその実態は全く異なります。プラスチックのレジ袋1枚と新聞紙1枚とでは、容量ではさして異なりません、重量はかなり異なります。5%と言っても、重さで5%分別率が悪いと言っても、重さでだったら少しに見えても、かさで見たら結構多くに見えます。この意味で、比重の軽いプラスチックごみは、この%で見ると数値的には小さくても、かさから見ると結構多いことになります。

特にプラスチックごみが今問題になっていますが、そのところを注意しなくてはいけないのです。数字的にはきちんと捉えられてはいないとは思うのですけれども、感じとし

ていかがでしょうか。

○事務局

練馬区全体で年間13万トンほど出ます。

そのうちの12万トンが可燃ごみ、不燃ごみが5千トン、残りの5千トンが粗大ごみです。圧倒的に可燃ごみが多い状況です。

○会長

可燃ごみの中で容器包装プラスチックごみの割合は何%ぐらいでしたか。

○事務局

約4%かと思います。

○会長

重量比で見るとごく僅かになるのですがけれども、プラスチックごみは、量的に捉えるとかなり多いですね。

この辺がごみの量を捉えるときに注意しなくてはいけない、非常に捉えにくいところですね。

そもそも、ごみはプラスチックを含めて全て、重量比でやっています。

かつて、東京では、ごみ比重というのが1.25で換算していましたね。

実際は、今プラスチックが多くなっているから比重は下がっているかもしれません。

逆に厨芥生ごみが相対比として、減ってきています。ごみの組成を重量比的に捉えておかないと、なかなか判断できない点があると思うのです。

ご意見、あるいはご質問があれば、どうぞお願いいたします。

○委員

可燃ごみが圧倒的に多い中で、雑紙のウエイトが大きいですね。

毎年の会議で議題としていますが、雑紙が全然減ってこない。

どのような告知方法で区民の方に周知されているのか、やり方があるのかなという感じはするのですが、その辺はどうなのでしょう。

○事務局

分け方と出し方という小冊子とホームページで周知活動を行っています。紙ということで、リサイクルに回すより抵抗感なく可燃ごみの方に入れられてしまっているという部分があるかもしれないです。

一工夫した周知方法というのは考えていきたいと思っております。

○会長

ほかにございませんか。どうぞ。

○委員

分別が昨年より改善されていますよね。どういう対策を実施されたのですか。

○事務局

地道に周知活動を行っています。清掃事務所は、現場で、排出指導を行っています。こうした日常の活動が改善につながっていったのではないかと思います。プラスチックごみについては、区民の皆様の環境問題に対する理解が進んできているのではないかと考えております。

○委員

報告されているのは令和元年度の数字で、過去を比較すると随分よくなってきています。これは関係者の努力以外の何物でもない。

ところが、令和2年度は相当悪くなるだろうと考えている。というのは、コロナの関係でいろいろなイベントがなくなってしまって、PRの機会が少なくなりました。例えば、練馬まつりは、PRの機会として最高の機会であったし、光が丘で行われているよさこい祭りであるとか、あるいは多くの地区祭がことごとく中止になっている。

そうすると、区民との接触の度合いが薄れてきて、区報で流すだけになります。

ホームページは探しているところにたどり着くのに苦労します。

令和2年度以降は残念ながら数字は悪化するのではないかと思います。担当部署は、どう考えておられるのか。

○事務局

不燃ごみの中に、びんとか缶が多く入っているというのは、現場の職員の感想として聞いております。

来年度は、なかなか厳しい状況になるだろうということは考えております。コロナといったような環境の中でどういったことができるかということについて、職員にも投げかけております。地道にやっていくことが基本ですけれども、周知活動に力を入れていきたいと考えております。

○委員

外国人対応を、もう一度考えていただく。

習慣の違いや日本語が分からないことでごみの分別ができない方が増えている。

外国人向けのパンフレットなどでのPRの仕方、その辺もお考えいただければなと思う次第です。

○事務局

外国人対応ですが、外国語を併記した分別の看板を作っております。そういったものを貼り出すことや、転入し、外国人登録される場合に、ごみの分け方と出し方の外国語版をお配りするというを進めて行くことを考えております。

○会長

体制づくりも必要ですね。国際化の時代ですから、より早急に進めて行く必要があると思います。こちらからまず知らせていかないと、徹底するのは難しいと思います。

○委員

分別されていないものが搬入された場合に、どう対応しているのか、また、コストが追加になり、どう困っていらっしゃるのかという、情報がないのですよね。

そのようなことを区報で、「こう困っています」ということを写真で示して教えていただけるとよいです。

また、可燃物の日に不燃物を出すと、「分別されていません」と、赤い紙を貼られます。混入することで、どのぐらいのコストアップになったり、どこがどう困っているかという情報をいただけるとありがたいです。

○事務局

分別されていない場合、どのような影響があるかということですが、例えば、リチウムイオン電池を可燃物の中に入れられると火事が起き、そこで収集をストップしないといけなくなります。また、清掃工場で、体温計や血圧計の水銀が入った場合には、工場の運転が止まってしまうということもあります。

コスト的に、どのぐらいかかるかというのは分からないのですが、大きな影響が出ることになります。

○事務局

清掃職員は、ごみを持った時の重量で、缶やびんが入っているかどうか分かるので、除去することができます。しかし、リチウム電池や充電電池は分からず、これは発火の恐れがあります。

また、使い捨てのガスライターも非常に危険なものです。危険なものについては、手渡しで清掃職員に渡していただくよう周知をしているところです。

○会長

事前に委員から、リチウム電池の危険性について、皆さんに紹介したいという申出がありました。お願いします。

○委員

ありがとうございます。都心のオフィスビルから出てきたごみの中にリチウムイオン電池が入って、奥の方に入っていたものですから分からないで巻き込みました。

煙が出てきて、火を噴く寸前に私どもの作業員が開けて中を探ったところ、リチウムイオン電池が入っていました。発火して、ごみの周りは焦げています。

リチウムイオン電池の捨て方、例えば量販店さんや、電気店で回収するとか、どうやって、周知徹底していくかというのが非常に大事です。火災になると、人の命に関わります。リチウムイオン電池は、たくさん出てくるとお思いますので、捨て方を、徹底していただい

ればありがたい。

リチウムイオン電池は、コンビニで買ったお弁当箱の空箱に入れたり、わざと見えないうようにして捨てるというケースも多いのです。危険な行為だということを知って捨てる方もいます。パッカー車は1台800万円から1千万円します。だめになったらまた買い替えなければいけません。そういうこともありますので、リチウムイオン電池の分別の仕方の周知を、ぜひお願いしたいと思います。

○会長

場合によっては命にも関わるような危険なものも入っています。

実際に、両清掃事務所で、家庭ごみの中でそういった大きな事故になったというのは、最近はありますか。

○事務局

大きな事故につながったことはございません。

○事務局

最近は、大きな事故につながった例はありません。

○事務局

モバイルバッテリーとか充電式の電池は一般社団法人のJBRCというところがリサイクル事業により回収を行っております。

庁舎やリサイクルセンターに回収ボックスがありますので、出していただければ回収します。私どもも宣伝はしているのですけれども、そこまで行かなければいけないということで、集積所にそのまま出される方もいらっしゃるのかなというふうに感じます。

○委員

私は電気屋なのですけれども、お年寄りからファックスや電話機の電池を交換してくれと依頼されます。

そのときは、私が分別するのですが、一般の人は、まず持ってきていないですね。お店にはリサイクルしますよと書いてあるのです。

皆さんに、「危険なんだよ」ということをたくさん知らせていただければ、少しずつ分かってくるのではないかなと思います。

○会長

確かにリチウム電池は、昔と比べたら桁違いに需要があると思いますね。一般家庭にある、いろいろな製品の中に入っていますから。

危険なもの割には、区民サイド、消費者サイドで、認識が薄い傾向があると思います。何か、この点について検討されていることはあるのですか。

○事務局

リチウム電池は危険なものだということについて、今後、検討して、効果的な方法を取り入れて、周知をしていきたいと考えております。

○委員

リチウム電池の危険性について区民は知らないです。

そこで、消防署や消防関係団体をお願いをして、リチウム電池の危険性、同時に回収の方法について、写真入りでA4のパンフレットを作るぐらいのことをやらないと、なかなか認識されないと思う。

消防署や防災協会とのタイアップも一つの方法ではないでしょうか。

○委員

テレビを見ていたら、ごみの分別とか、不燃物の埋立ての場所が何年後にはなくなるというような内容の放送がありました。皆さんの分別活動が紹介されていました。このような情報は、普段、見る機会がありませんが、テレビ放送されると、何気なく見てしまいます。区役所のロビーに置かれているテレビで放送すれば、待っている間に、何気なく見てしまいます。自分の行動が、こういうことに生かされるのだったらという、意識改革にもつながっていくのではないかと感じました。

○会長

周知方法というか、広報が大切なポイントだと思います。

○委員

リチウム電池は、パソコンなどの機械についていると思うのですが、電池だけを外して捨てるということがあまりないのではないかと思うのですけれども、電池だけ外すというのがあるのですか。

○委員

充電器にはリチウムが多いのです。練馬区から先日配布された、防災用の太陽電池充電器もリチウム電池です。

○委員

分かりました。リチウム電池は危険なので、お店で回収していることについてPRするように、量販店さんをお願いしてみたら良いと思います。回収箱に入れるためにお客さんがお店に来れば、売り上げに貢献するかもしれません。

○委員

リチウムイオン電池は、分別が大事ですが、同じように、鼻を噛んだティッシュやマスクが、破れかけた袋の中に入っていて、コロナの関係で、回収するときに、いろいろ気を使うこととなります。コロナは、しばらく続く可能性が大きいです。回収作業をしている

と、ごみ袋を2重にして捨てている方もいらっしゃるし、レジ袋が破れてマスクが半分こぼれているような形で捨てる方もいらっしゃいます。コロナに関するマスクなどの捨て方の徹底が必要です。

回収作業員は、車の中に消毒剤を入れて消毒をし、窓は全開にして、気をつけながら対応しています。コロナに関する廃棄物の捨て方も啓発していただきたいと思います。

○事務局

区では、ホームページと区報でマスク等の捨て方の啓発をしています。時間がたつと忘れられてしまうこともあると思いますので、なるべく頻繁に周知できるようにしていきたいと思います。

○委員

そもそもが、ごみの総量を減らすというところからスタートですね。ウィズコロナでライフスタイルが変わっています。自宅でのテレワークも進展して、外食も控えて、家庭で過ごす、そうすると、家庭ごみが増えているのではないかと感じています。何か対策をしていかないと、家庭からのごみが増えていくのではないかと思います。これまで、努力でせっかくごみを減らしてきて、事業ごみという形に振り替わって、また事業ごみが家庭ごみに振り替わる、ということが考えられると思うのですか、いかがでしょうか。

○事務局

3月ぐらいから可燃ごみもかなり増えてきております。3月は、前年比約9.1%増えています。不燃ごみは13.2%。粗大ごみだけがマイナス3%というような状況でした。事業系のごみは、かなり減っていました。

4月以降も可燃、不燃、粗大ともに増えた状況でしたが、詳しくみると、7月の可燃ごみは、前年比で99.8%、8月は101.3%でした。不燃ごみは、7月は101.8%、8月は130.2%ということで、ごみの動きが見えない状況です。今後は、家庭ごみにシフトしてくるというのは考えられると思います。ウィズコロナの状況の中でのごみ排出抑制について、どうやって取り組むのか検討してまいります。

○会長

ごみは、生活スタイル、事業スタイルが変われば、当然、ごみの性状も変わってくるし、出し方も変わってきます。今年は、コロナという非常に特殊な要因でごみの出方も変わっています。対応も、コロナ対策という面で考えていかななくてはならないと思います。

研究者の立場でいろいろと他の市町村なども見ていらっしゃる、副会長に練馬区の今日の結果とあわせて、コメントをお願いしたいのですが、いかがですか。

○副会長

正直な感想ですが、資料の説明をしていただいて、正しい分別が3科目、3品目、いずれも70%後半、ものによっては80%を超えています。本当にすごいなと思いました。ここまで、正しい分別率が高いのは全国的にもとてもいい数字だと思います。特に、容器包装

プラスチックの分別割合が78%というのは、容器法に従って分別を始めているところから見ても、非常にいいのではないかと思います。

容器包装プラスチックは、缶・びんと比べたら分別が難しいことが課題だと言われています。東京23区でもまだ容器包装プラスチックの分別すら始めている区もあります。練馬区は早くから取り組まれて来て、長期にわたる行政の努力と、区民の方々のご協力のたまものだと思います。

ただ、調査は去年の9月ですので、3月から暮らし方、働き方が大きく変わってしまいました。国立環境研究所でもコロナのあと、ごみの総量がどうなっているか、全国データは追えていないのですけれども、収集の仕方も含めて、どこにどういうリスクがあるのか、ウィズコロナの時代に何のごみがどのくらい増えるのかというのは、これから環境省と一緒に調査をしていかなければいけないと考えています。

心配しているのは、ウィズコロナの時代になって、普段、家にいない人が家で生活するようになっているということです。人が生活するとごみが出るのは当然なのですが、普段ごみ出しをしていない方が、ごみを出すということになると、量が増えるだけでなく、不適切なごみとか、危険なごみを悪気なく出してしまうというケースが増えているのではないかなと思います。

練馬区は、テレワークになった住民が比較的多い区ではないかと思います。これまで、ごみ分別に関心がなかった方にもPRしていかなければいけないと思います。広報誌だけではなくて、ウェブサイトとか、SNSとかいろいろな媒体を使って、改めて発信強化された方がそういった方に届きやすいと思います。

○会長

コロナによって、生活スタイルがかなり変わっています。当然、ごみ出しもかなり変わっているはずですが。コロナは、1か月や2か月で終わることは無いので、根本的に考えていかななくてはならない課題だと思います。ごみ行政は、常に後追い行政になります。あらかじめコロナを予想することはできません。対策が後手になるのは当たり前ですが、それだけに早急に対策をしていくという宿命を持っています。これが課題だと思います。

従来の感染性廃棄物は、量的に見ればごくわずかであり、対象も限定されていて、対策しやすかったのです。在宅介護、在宅医療が進んできたので、感染性廃棄物についても取扱いはより慎重になっていかななくてはならないという傾向はあります。コロナに関する廃棄物は、日常生活の中に入り込んだ感染性対策として考えていかななくてはいけないと思います。区としても早急な対策が必要だと考えていると思います。

そもそも、廃棄物行政は、衛生処理が原点ですが、段々変わってきて、いかに資源化するかということの方が重点になっています。ウィズコロナの時代になって、改めて、もう一度、本来の原点に戻って考えなくてはいけない部分もあると感じています。難しい面がありますが、これからの大きな課題です。

改めてごみの組成ということも含めて考えていく必要があると思います。

○委員

外国人へのごみ分別の啓発ですが、引っ越しの際、転入届を出すと思います。そのとき

に、分別の仕方について、窓口でリーフレットを渡して、説明していただくのも方法だと考えます。

○委員

リチウムイオン電池等のお話もありましたが、資源回収業界としてお話いたします。びん・缶・ペットボトルの状況が非常に悪い。袋に入れて出しているものは全てその場で破袋をして、分別しています。きれいに洗ったびん・缶・ペットボトルであればいいのですが、生ごみが入っている場合もあります。

区から、残さず回収してくださいと言われていたので、すべて回収しています。出した方は、その場から自分の出したごみや資源がなくなっていれば、リサイクルに回っていると判断して、次からも同じような出し方をします。区民サービスとしては良いことでも、きちんと分別をしていただかないと困ります。新型コロナのため、我々の業界は、非常にリスクが高いです。マスクとか、鼻紙、これは古紙の中にも入っています。紙に似ているということなのか、認識がないのか、ティッシュも溶かしてしまえば問題ないだろうという判断なのか分かりませんが、回収後に、処理施設の中で、我々が手作業によって分別等を行うことになり、非常にリスクがあります。ごみは袋出しされて、袋のままパッカー車の中に投げ込めば済むところなのですが、古紙・びん・缶・ペットボトルの回収は、人が口をつけたものが十分ゆすがれていないものもある中で、手作業で回収しているのです。行政から区民に対する周知をしっかりと継続して行っていただきたいです。よろしく願いいたします。

○事務局

実際にこういうふうな出され方をしていますというような実例を写真入りのホームページに載せるとか、アプリからそういうものが見られるようにしたいと思います。適正な分別は、区民と区、両方で取り組む必要があると思いますので、そういった観点から周知活動に努めてまいりたいと考えております。

○委員

区民は、集積所に持っていったら消えてなくなると思うわけです。よほどひどい場合は赤紙が貼られているけれども、置けばなくなっているというのが普通です。そうすると、区民は、よほどひどいことをしないかぎり持っていってもらえと考えます。

ホームページに載せたところで見える方もほとんどいない可能性もあります。集積所に大きく書いていない限りは伝わらないのではないかと思います。

「持っていった先では大変困っています」、「正しい分別をお願いします」、「大変な危険な目に合っています」というようなメッセージが必要だと思います。

○事務局

排出の状況が悪い集積所には、個別に指導に入っています。排出者が特定できれば、個人的に指導もしています。集積所での周知方法についても検討させていただきます。

○委員

マスクの取扱いについては、別途考えなくてはいけない時期にきたのかなと思います。公園や道路に、たばこのポイ捨てと同じぐらい、マスクのポイ捨てが増えています。衛生上の問題もありますが、マスクに対する区民の意識が薄いのが問題です。たばこのポイ捨てと同じような感覚で捨てていく現場を何回も見ています。

マンションやアパート等では、ごみの回収のときに、周知できるのですが、戸建ての場合は、収集場所に掲示物を貼るしか方法がありません。区報、掲示板等々含めて早急に検討いただいたらと思います。

○事務局

マスクの出し方については、区報で周知しているのですが、適正な出し方の周知については、検討させてください。

○委員

マスクは可燃物として出してください、と周知することが大切です。

○会長

ごみ組成の組成分析をしたら、結構な量のマスクが出るのかなと思います。

マスクのごみとしての出し方、感染性廃棄物として注意が必要なこと、そういったことを、区民へ周知していくことが必要です。

国立環境研究所または、環境省から、コロナ対策としての廃棄物の扱いについてまとめたものは出されているのですか。

○副会長

ガイドラインは出されていると思います。ガイドラインでは、マスク、鼻紙、家で療養中に出てきた廃棄物は、基本的に従来通り、燃やせば大丈夫というような内容になっていたはずです。

問題になるのは、収集されている方への感染リスクとか、処理の過程で、触る方のリスクが高いだろうということです。いろいろな国からガイドラインが出されていて、資料を集めているところなのですが、まだ、これがいいというはっきりしたものはありません。最低限、これは気をつけた方がいいという程度のガイドラインが出始めているところですが、収集過程で、誰がどれぐらいのリスクを負うのかというのは、整理をしていこうというような研究がようやく出てきているという感じです。

○会長

従前の家庭系廃棄物からの感染性廃棄物として、一番怖かったのは針刺し事故です。最近、在宅医療も進んでいます。収集過程での針刺し事故は、練馬区でもゼロではないと思います。これからはコロナ対策もしなくてははいけない。なかなか大変だと思います。

○委員

私どもはPCR検査をしたあとの検査器具を収集運搬しているのですが、ペール缶に入れていただいて、持っても大丈夫なように、病院の看護師の方が持つところを消毒していただいています。

また、私どもが収集運搬を担っている老人ホームでクラスターが発生したのですが、「10日間ぐらいいは来なくていい」という配慮をいただいたこともあります。

対面で伝票の交換をしていたのを、箱に入れて会わずに伝票のやり取りができるようにしたり、いろいろな面で工夫をしています。このような具体例を環境省とか、東京都環境局などに、アイデアとして吸い上げられる機会があるといいと思います。

○会長

23区では、ごみ行政側としてそういった対策協議をしている場はあるのですか。

○事務局

主管課長会では話題になっております。情報交換をして、効率的なやり方について研究しています。

○委員

生活者として思いますのは、マスクは高いのです。大体20円ぐらいするのではないかと思います。リユース可能なものがあります。

そういうマスクを普及すれば、コストも削減するし、ごみも減るのではないかと思います。区として、リユース可能なマスクの推奨はするのでしょうか。

○事務局

マスクについては、いろいろな意見があります。どういうマスクがいいかということは、清掃というよりは、保健所で判断をすることになります。

○会長

ほかに何かございますか。

○委員

資料の2ページに、びん・缶回収があります。びんの金属製のふたは不燃ごみとなっているのですけれども、金属と言っていいのではないですか。

○事務局

調べさせていただきたいと思います。

○委員

私はマンション管理人をしています。金属は缶に入れていきます。

○委員

密閉するためにゴムの部分があることも考慮する必要があると思います。

○会長

ビール瓶のふたなどは、容器包装の対象ではないのですか。

○事務局

申しわけないのですが、調べさせていただきます。

○会長

意見も出尽くしたようです。次に議題に移ります。

その他のことで、事務局の方からございますか。

○事務局

次回の開催についてご案内を申し上げます。次回の第5回推進会議は、令和2年12月15日火曜日を予定しております。開催通知等は、後日、送付させていただきます。

○会長

次回開催の予定、正式に決まり次第、委員の皆様にご連絡するということです。ほかにはよろしいですか。

○委員

今年のフードドライブは、これからですか。

○事務局

今年は、コロナの影響もありますので、中止する予定です。

○会長

ほかにはございますか。よろしいでしょうか。

それでは、終了させていただきます。皆様、お疲れさまでした。